

## くだたま ながの だい こふん 管玉 (永野台古墳 【丸山地区・石堂】 出土)

永野台古墳は、標高約50mの丘陵に立地しています。古墳の辺りまで登ると、今でも周辺の集落を見渡すことができます。こうした景観からも古墳時代当時に、周辺一帯を治めていた人の墓だったと推定できます。

へきぎよく 碧玉製の管玉が、8点出土しています。管玉は、細長い円筒状の玉で首飾りなどの装身具として使われていました。碧玉は、硬度が高い硬い石材で、産出地が限られます。

8点それぞれの長さは2.05cm~2.91cmで、じゆず 数珠つなぎとするため径0.8mm~4.0mmの孔があげられています。

電動工具がない時代に、どのようにして硬い石に細い穴があげられたのでしょうか。

諸説ありますが、砂などの研磨剤を使って錐状の工具であげたとされています。

